

丹生弘吉

丹生弘吉の民なり
 父の死にけりては
 母を孝養する人なり
 父の死にけりては
 母を孝養する人なり
 父の死にけりては
 母を孝養する人なり

母の公より
 恩をくはむ



丹生弘吉の
 父の死にけりては



丹生弘吉の
 父の死にけりては

丹生弘吉の
 父の死にけりては
 母を孝養する人なり
 父の死にけりては
 母を孝養する人なり

大江舉周

大江匡衡れ子少て振々
 赤澤備門あり奉周なりと病定
 赤澤のん 好ひて
 恒吉小指



わたりて新金にぞもて
 ちかきとてまゐるれふた
 と柳をなつけれは奉周の病ひ
 ちかきとてあておまゐるや
 奉周の病ひ
 大おかしき
 ちかきとてあておまゐるや
 奉周の病ひ
 ちかきとてあておまゐるや
 奉周の病ひ

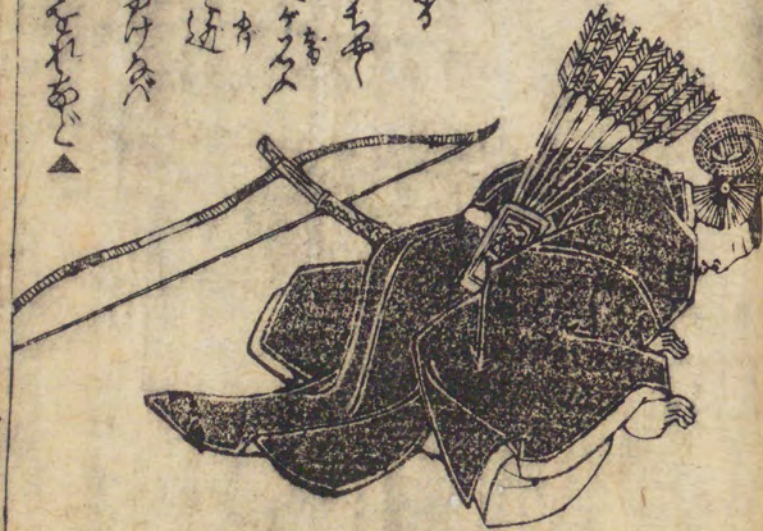
Wednesday



孝

隨身公助

東之傳太政大臣の
所傳武則が子なり
右をける場の勢うと
りくあてなりそおきまされあり
所せむは公助成さるふちやうちや
あらうされとも公助強よりそ文々る人
中不打ちある後ふ今をす通
きしと動移ければさうぶ部わけあへ
父を戒つるなりやはさるんをれあ





其のわたりは
 松崎のりやと
 十三年
 帝の御代に
 遠勢のいふ
 松崎のりやと
 一推とあり
 松崎のりや
 華々



橘氏妙仲
 橘遠成の娘なり
 遠勢のいふ
 松崎のりやと
 一推とあり
 松崎のりや
 華々

伴直家王

母房のふちの影代
 氏少親下影代
 父母のけしきに
 なる人あきまのき
 影きふじ三親の影代
 本代作の影き
 所あふかた



影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

影きふじ

信州の考見

あまのり

男子

依个妻子

かきとる

後妻をむく

妻如也

あを折く文を通下る所

何某園

卷之五

戸隠山へもあそびのやせを



一志ありける

本署知事

此本

...

鬼

卷之五

あき

中

ハナ

又

20



子に及せし

けふそのまゝ

罪をす

事乃次

2

漢書

三
子

卷之六

卷之四

まゝりか

改めぬ

佐紀民直

大和の西佐紀といふ

所の民の直民の娘

なり同ト秘の

大和をす

果安をふ

人の妻と

ぬき不幸に

ありてまゝ

かんま



孝行はくしき

徳ふとつち

せうふとふせ

八人けりけとる

なくけいきとそ

義りのた孝の

乃義娘の乃

むしとてあめ

賢きとみる人

感トけりとる



小松内大臣

内大臣重盛の平相公
清盛の孫なりまづこれ
父の清盛おとろふまゝに
若成あひうろ内氏と
言ふまゝに侍ておと
ろふまゝとて重盛の
歎きを神明あつゝおまへ
おとろふまゝとてさへ
いふまゝに侍ておと



父と
重盛の
入まんと
いふ
孫のひね
されが
ま盛
存生の
うちハ
大運と
あま
か
なり



フ
ア
ズ

[illegible][illegible]

孝子今女

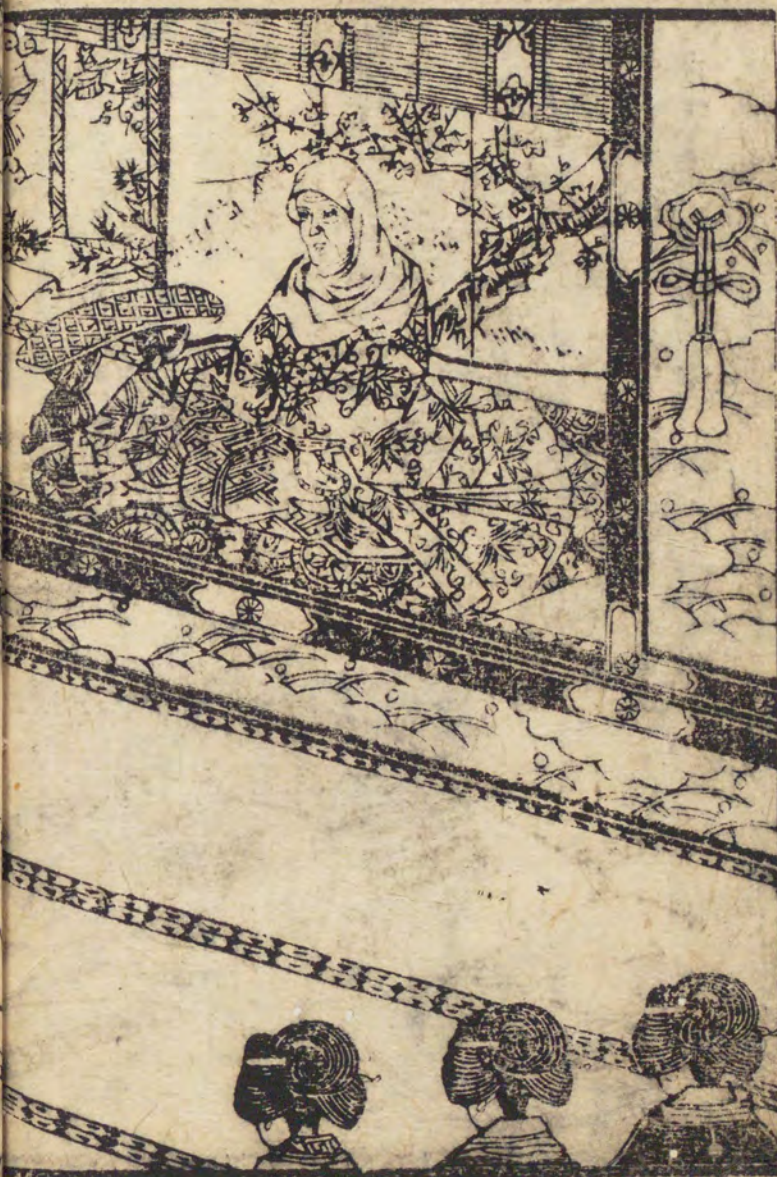
大和のふ竹の用村の
 何れか見せしむるに
 此の世にまじりては
 誰かみえしむるに
 人の親の仇をいふは
 父の仇をいふは
 人の仇をいふは
 父の仇をいふは
 人の仇をいふは
 父の仇をいふは



大和のふ竹の用村の
 何れか見せしむるに
 此の世にまじりては
 誰かみえしむるに
 人の親の仇をいふは
 父の仇をいふは
 人の仇をいふは
 父の仇をいふは
 人の仇をいふは
 父の仇をいふは



つやを切つたものとてき　ちやうど
小條煙突さうき時の長子とて
まゐるのまゝあらんやうに
剛強を執持強さふとて

[illegible]

薩摩福依賣

薩摩のむねあき
氏の娘なり父老老て元
より家多老を幸に病あり

あえて子あり中死あり
父母を孝く終るまひりてあはれと
二十歳にむすめ仁壽の帝の
女に絶縁あり

いふあうとと

家多老

りり



三

の
ト
ゾ

新刊の漢書全

廿一號 每小 5000000000

より完成するの必要を

天下国と稱ふ

廿九日

女と男の差を以て

後人と物とあり

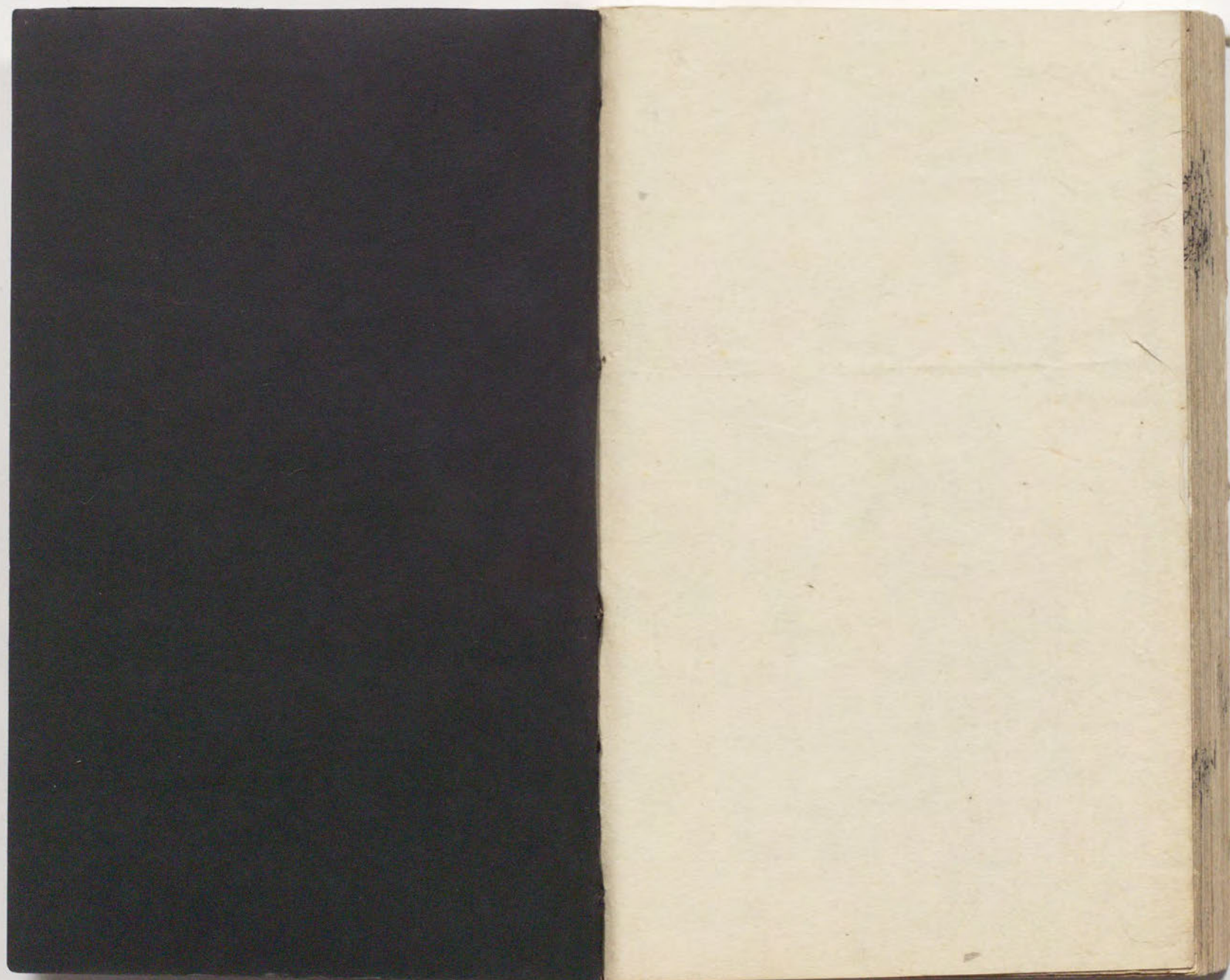
卷之六

一

葉

七

あゝぬきかしの
おとせいの原かん
とゆへかきしりよりなり
なだくも父れ遠きをあらはるとぞ



撰者

樂亭西馬



畫工

橋本貞房



文久三癸亥孟冬再刻

東都書肆

日本橋通三町目

三河屋甚助

南傳馬町三丁目

三河屋善兵衛

